

国内6事業所で実施・検証した社員食堂におけるポピュレーションアプローチとしての健康・栄養情報の提供

<背景>

従業員全体に対する健康の保持・増進を目指した保健指導プログラムを効果的に展開するには、取り組みの目的に応じたポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの連携が必要である。一方、実際に従業員全体に対して継続的な情報提供を比較的少ない労力で行うためには工夫が必要である。そこで、多くの従業員が利用する社員食堂を活用した取り組みについても考慮すべきである。

<目的>

社員食堂を活用したポピュレーションアプローチとしての栄養・食生活改善を主たる目的とした情報提供

<対象>

社員食堂を利用するすべての従業員

<内容>

社員食堂に設置されているすべてのテーブルにメニュースタンドを用いてテーブルポップ（健康・栄養一口メモ）を作成し同一の内容を設置する。

<内容の設定とハイリスクアプローチへの配慮>

健康・栄養一口メモで取り扱う内容は、従業員の定期健診成績、疾病の状況、食習慣、栄養素等摂取状況を客観的に評価したうえで、望ましい情報を出来るだけわかりやすく継続的に提示する。

この際、ハイリスク者の状況やそれらへの取り組みについて考慮し、連携するように配慮する。

<特徴・留意点>

- 1) 紙面の構成は、以下に示した例示のように、ひとつの紙面にあまり多くの情報を盛り込まないように配慮する。キャッチコピー、本文、カットを概ね1：2：2の割合で配置し、カラーで印刷すると視野に入りやすい。
- 2) 食堂の利用率が高い場合は1週間に1回の割合で内容を変更すると利用者の理解が得られやすく、かつ、飽きがなく効果的である。
- 3) 4から12週間を1つのサイクルとして、同一のテーマの内容を取り上げておくと、利用者に対して情報を提供する側の意図が伝わりやすい。
- 4) 一連の掲載内容はハイリスクアプローチや組織として優先順位の高い内容あるいは、食堂におけるイベントや行事献立と連動させておくことよい。
- 5) 具体的な内容については、産業医や産業保健師と連携しながら、社員食堂や健康管理部門に勤務する管理栄養士が中心となり作成すると、既述のように実際に従業員が利用する食事との連動が図りやすく従業員の理解も深まりやすい。
- 6) 定期的にアンケート調査を実施し、健康・栄養一口メモに示した内容の理解状況やニーズを把握すると、適切な情報提供が継続できる。